

平成24年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

(平成24年4月～平成25年3月)

平成25年8月

国東市教育委員会

## 点検及び評価の概要

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正において、教育委員会の行政の執行状況について、点検・評価を実施することが義務付けられました。これは、教育委員会の効率的な教育行政の推進を資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が、①毎年、②教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の事務の管理執行状況について、③教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ、点検・評価を行うこととし、④その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされました。

国東市教育委員会としては、第1次国東市総合計画の基本目標を基に、次代を担う人材を育成し、だれもがともに学ぶ、地域の伝統を次代につなぎ、国東市らしい文化の創造に向け、“歴史が息づく人と文化のまち”を目指し実施した取り組みについて、自己点検・評価を行い、評価内容の客観性を確保するために、国東市教育委員会評価委員から今後の教育行政の推進について意見・提言を受けました。これらを「平成24年度 教育委員会点検・評価報告書」としてまとめ公表することとします。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づく教育委員会の点検・評価制度の実施により、教育委員会自らが事後にその成果や課題を確認することで、今後の施策改善に反映させるとともに、目指すべき方向性についてより具体的なそして効果的な教育行政の推進を図ることとします。

平成25年8月16日  
国東市教育委員会

## 点検及び評価の構成

### (1) 項目

点検・評価は、「1. 教育委員会」、「2. 生涯学習の振興」、「3. 学校教育の充実」、「4. 青少年の健全育成」、「5. 地域文化の振興」、「6. 生涯スポーツの振興」の6つの大項目を基本として、必要に応じて細分化し、それぞれの分野ごとに点検・評価を行いました。

### (2) 進捗・達成状況

平成24年度（平成24年4月～平成25年3月）の進捗及び達成状況をパーセンテージで表しています。既に事業を終了している項目や、達成している項目については、100%という表示になっています。

### (3) 評価

進捗・達成状況を踏まえて、課題等を項目別に評価をし、ランク付けを行ないました。評価の判断基準は次のとおりです。

評価	判断基準
A	成果が上がり目標を十分達成している
B	一定の成果が上がっているが取り組みを強化する必要がある
C	取組みが不十分で改善の必要がある

### (4) 知見の活用

点検・評価に対して、国東市教育委員会評価委員からご意見を頂きました。ご意見を頂いた方々は、次のとおりです。

委員長	足立和久氏
委員	今富英二氏
委員	信原英治氏
委員	石川美恵子氏

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している  
 B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
教育委員会	(1) 教育委員会の活動						
	■ 教育委員会の会議の開催	定例会(毎月1回計12回) 臨時会(2回) 計14回開催	会議前に会議資料を送付し事前検討。精力的な論議ができた。		100	A	
		会議録の作成	前回の会議録を事前に送付し委員会時に確認・承認。慎重な論議ができた。		100	A	
	■ 教育現場の実情把握(学校訪問)	教育委員による学校訪問(6月)、学校諸行事参加	学校現場の実績を把握し委員の意見を集約した。	学校訪問では学校数が多いため時間的な余裕がない。	100	A	
	■ 社会教育委員との合同会議	社会教育法の趣旨に則り実施	平成24年12月19日実施	事前協議を行い活発な意見が出された。	100	A	
	■ 広報・情報公開	ホームページによる議案・協議内容要旨公開	毎月実施(毎月更新)	議案内容も公開する必要がある。	100	B	
	■ 教育委員の改選	教育委員5名のうち、保護者である者1名を再任	女性教育委員を選出した。		100	A	
	(2) 教育委員会が管理・執行する事務						
	■ 市教育行政の基本方針を定めること	国東市学校・園教育環境整備計画の推進					
		竹田津小学校保護者へ「国東市学校・園教育環境整備計画」について説明	H24年4月に大恩小・来浦小は富来小学校と、豊崎小学校は国東小学校と統合	「国東市立幼稚園・保育所等あり方について(答申)」を尊重した整備計画を策定する必要がある。	100	A	
	■ 教科書その他教材の取り扱いに関すること	平成25年度使用教科用図書準備	平成25年度に使用される小・中学校教科用図書の準備が完了した。		100	A	
	■ 教職員の人事に関すること	大分県教育委員会の方針に基づき配置(3月)	平成23年度は3校(来浦小・大恩小・豊崎小)の閉校があったが過員状態になることなく人事異動が出来た。		100	A	
	■ 事務局及び学校その他の教育機関の職員の任命その他人事に関すること	3月末職員人事異動			100	A	
	■ 教育委員会の附属機関の委員の委嘱に関すること	国東市心身障害児就学指導委員会委員の委嘱	12名に委嘱(医師、学校教育関係者、識見を有する者で構成)				
		第5回教育委員会にて承認	12月就学指導委員会を開催し、対象児童生徒を調査し適切に対処した。		100	A	
■ 委員会の規則等の制定又は改廃に関すること	規則・規程等の制定、改正を行った。	規則制定、改正 5件 規程制定、改正 7件 要綱制定、改正 12件		100	A		
■ 議会の議決を経るべき議案の原案決定に関すること	条例の制定、改正の原案決定を行った。	条例の改正 3件		100	A		
■ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項の規定による点検及び評価に関すること	教育委員会の職務執行状況の点検及び評価を行った。	H24年9月議会(H24.8.20)にて議長へ報告	評価委員を選定し学識経験者の知見を活用する。	100	A		

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している  
 B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	(1) 特色ある生涯学習プログラムの整備と提供						
	■ 社会教育委員会の開催	4回開催 県の研修会、九州地区研修会に参加	・平成25年度社会教育計画の策定に向けて意見や補助金のあり方について意見をいただいた。 ・教育委員との意見交換会開催	社会教育委員会の開催時期や協賛内容について、時間的制限の中で検討していく必要がある。また、課題について社会教育委員会として研究・調査等を行っていくことが求められる。	80	B	
	■ 公民館運営審議会の開催	国見(1回7月30日開催)	平成24年度の総括、平成25年度の取組みについて意見交換を行った。	平成24年度の総括、平成25年度の取組みについて意見交換を行った。	地区公民館との連携、事業分担等の協議が必要である。	50	B
		国東(2回開催)	平成24年度の総括、平成25年度の取組みについて意見交換を行った。	平成24年度の総括、平成25年度の取組みについて意見交換を行った。	現在4中央公民館ごとに開催している中央公民館長の諮問機関としてこのまま継続したい。	80	B
		武蔵(1回開催)	平成24年度の総括、平成25年度の取組みについて意見交換を行った。	平成24年度の総括、平成25年度の取組みについて意見交換を行った。	地区公民館との連携、事業分担等の協議が必要である。	100	A
		安岐(1回3月開催)	平成24年度の総括、平成25年度の取組みについて意見交換を行った。	平成24年度の総括、平成25年度の取組みについて意見交換を行った。	地区公民館活動内容と地域の連携年2回の開催実施目標	80	B
	■ 公民館講座	公民館講座(公民大学・くにさき塾等自主講座)	4中央館合同での募集実施	4中央館合同での募集実施	募集チラシについて、講座の内容がより分るよう検討していく必要がある。	100	A
		自主講座の活動発表					
		国見:文化芸能発表会(3月10日みんなかん)	国見公民大学「楽習館」開設40周年記念式典時に、文化協会と合同で学習成果の発表会・作品展示等を行った。	学級生の高齢化等により受講者数の減少が顕著なため、新規加入学級受講者の確保の必要がある。(地域事情等を考慮して組織的に取り組む必要がある。)	90	A	
		国東:くにさき生涯学習フェスタ	2/9フェスタ開催:入場者数500名	小中学生の作文応募数がほとんどない。例年を上回る入場者を得たが、さらに集客努力を行い、広く生涯学習の広がりを構築していく必要がある。	85	A	
		武蔵:武蔵カルティナル(2月17日実施)	発表団体、作品展示数の増	小学生(子供会)の作品応募・発表参加が減少傾向にある。	100	A	
		安岐:公民館まつり(3月開催)	1年間の学習成果の発表	芸能発表と作品展示会場を分離し開催、作品展示について減少傾向にある。	100	A	
		館長・主事会議の開催					
		国東市16館全体会議(館長・主事会議:年3回)	館長・主事を中心に生涯学習を通じた地域活性化に向けて意識の統一が図れた。	地区館毎の活動に温度差も見られる。引き続き地域性を重視しながらも市全体として方向性を確認しながら活動をつなげていかなければならない。	90	B	
		国見地区(1回)	3館の事務打ち合わせ、事業報告、事業計画協議、情報交換を行った。	地域性等の各地区公民館の特徴を考慮した活動を実施する必要がある。	90	A	
		国東地区(1回)	6館の事業報告、情報交換	情報交換による更なる活性化を図る。	90	B	
	武蔵地区(2回)	2館の事業報告、情報交換	地域活性化のための地区公民館行事の実施	100	A		
	安岐地区(毎月20日実施)	5館の事業報告、情報交換 各地区館とも地域に根ざした活用をするようになった。	更なる充実・活性化を図る必要がある。	100	A		
	地区公民館活動						
	共通	地区公民館活動交付金	平成21年度から16地区公民館に活動交付金を給付し、地域性を考慮しながらの地域生涯学習の推進に役立っている。	交付金の交付を始めて4年目を迎えるため、交付金の活用状況について詳細な調査・検討を考えたい。	80	B	
		地区公民館活動推進委員会の開催	地区内の区長、学校関係者、PTAほか各種団体等の代表により、地区公民館の年間行事等を企画、地域独自の有効な事業を企画している。	地区公民館を拠点とした地域活性化に向けた諸施策の企画運営、地区公民館によっては運営委員会の十分な機能が図られていない状況も見られるため、館長・主事研修等を充実させる必要がある。	90	B	

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	■ 公民館活動	文化行事					
		国見	(竹田津) ・花いっぱいによるおもてなし運動の実施 ・地区内の伝統行事(巫女舞)の継承活動の支援 ・自主講座の推進	地区公民館活動の周知が地域に広がりつつある。	広報活動をより活発に行い、公民館活動の周知の必要がある。	80	A
		国見	(伊美) ・花いっぱい運動(プランター・土・花苗の配布)の実施 ・歴史探訪歩こう会の開催(地区内史跡ボランティアガイド)	地区公民館活動の周知が地域に広がりつつある。	継続性のある企画・立案を行う必要がある。	80	A
		国見	(熊毛) ・地区公民館だよりの発行 ・花いっぱい運動(プランター配置)の実施 ・ふれあいハイキングの開催 ・三世代グラウンドゴルフ大会の開催 ・バドミントン・卓球教室の実施 ・陶芸教室・しめ飾り教室の開催 ・史跡探訪ウォーキングの開催 ・民謡教室の定期開催 ・熊毛地区大演芸祭の実施	大演芸祭も定着し、地域の子ども会・他地区からの交流出演等出演団体も増え、地域に楽しい話題が提供できた。 新しい教室も開催し、よりバラエティに富んだ活動が展開された。	文化部の専門部を中心に企画・運営を実施した。各行事とも、反響が想像以上に大きいため、今後も努力を続けて欲しい。	100	A
		国東	(杵浦) ・総合文化祭の開催 ・神楽保存継承 ・高齢者大学の開講	小学校廃校に伴い、単独の開催となった。	地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		国東	(富来) ・地区文化祭の開催 ・地区内納涼盆踊りの実施 ・高齢者大学の開講	納涼盆踊りを開催し地区内の調和につなげられた。	小学校統合後の地域行事の持ち方 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		国東	(上国崎) ・地区文化祭の開催 ・高齢者大学の開講 ・納涼盆踊り大会の実施	小学校統合後の地域づくりにむけて「自分たちの地域は自分たちでつくる」という意識をもったリーダーが生まれ始めている。	小学校跡地の管理と利用	80	B
		国東	(豊崎) ・地区文化祭の開催 ・地区館主催の歴史を学ぶ会の開催 ・高齢者大学の開講	地区公民館主催の歴史を学ぶ会が発足した。地域主導型の生涯学習講座として重要な意義があると思われる。	地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		国東	(国東) ・新春お楽しみ会の開催 ・今在家・興尊寺地区の文化祭に助成 ・高齢者大学の開講	世代間、行政区間の交流が活発になった。	対象人口が多く、統一的な事業実施が難しい。 より多くの人が参加できるような広報活動の充実	80	B
		国東	(旭日) ・高齢者大学の開講 ・広報誌発行	広報誌の発行は3回。	地区内行事を周知するため、広報誌の恒常的な発行	80	B
武蔵	(武蔵西) ・武漢学級(高齢者学級)の開催	年10回開催 高齢者の健康維持と生きる力となっている。	地域を支えていくための「人づくり」が必要である。	100	A		
武蔵	(武蔵東) ・れんげ学級(高齢者学級)の開催	年10回開催 高齢者の健康維持と生きる力となっている。	学級の参加を増すための送迎が困難である。	100	A		

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	■ 公民館活動	安岐 (西武蔵) ・第224回梅園祭 ・第4回まんぶく祭 ・地区館各種講座	・地区内外の多数の参加を得ることができた、午後ゲートホール、短歌会の開催 ・地域の祭り、市内の行事、運動会等で披露 ・地区団体が地区館と連携しながら活動中	・参加者の高齢化、移動手段の確保、小中学生や一般若年層への呼びかけ企画検討 ・地区イベントや団体個々の活動に取り組んでいるが、参加人数が固定化されつつある。 ・広報活動の充実	100	A	
		(朝来) ・第89回朝来地区公民講座 ・第24回朝来地区盆踊り大会 ・あさぎりふれあい祭り	・地域の方々の勉強会やふれあいの場となっている。	・講師の選定 ・高齢者の交通手段の確保	100	A	
		(西安岐) ・館長杯パークゴルフ大会 ・館長杯ゲートホール大会 ・館長杯グラウンドゴルフ大会 ・からす市駅伝 ・ミニバレーボール大会	・親睦と健康づくりを図ることが出来た。	・チームが減少傾向にある ・少子、高齢化によりチーム減少 ・多くの参加と宣伝の工夫 ・婦人会活動の活性化	100	A	
		安岐 (安岐) ・公民館長杯ゲートホール大会 ・ふれあいグラウンドゴルフ大会 ・青少年駅伝大会 ・軽スポーツ大会	・ゲートホールをする人の交流、親睦ができた。 ・初心者の参加もあり、楽しくできた、互いの交流の機会になり、来年も是非と言う声が多かった。 ・国東市駅伝競走大会の練習を兼ねて、標記の大会に参加した、子どもたちはそれに向かってしっかり練習するので目標を持った練習ができた。	・地区内で各行事に対して、協力し合える体制が出来つつある。	100	A	
		(南安岐) ・軽スポーツ大会 ・健康作りウォーク ・夏休みラジオ体操会 ・向陽祭記念ゲートホール大会 ・館長杯ゲートホール大会	・親睦と健康づくりを図ることが出来た。	事業の継続実施	100	A	
		体育行事					
		(竹田津) ・地区体育大会の開催 ・newスポーツ大会の開催 ・3地区・世代交流グラウンドゴルフ大会の開催 ・国東市駅伝競走大会への支援	長年続けてきた地区体育大会をより発展的に開催でき、さらにnewスポーツ大会・グラウンドゴルフ大会では幅広い年代間の交流ができた。	さらに、活動を広げていきたい、具体的には健康歩こう会等を計画したい。	90	A	
		国見 (伊美) ・小学校運動会と国見中学校運動会に参画 ・3地区・公民館長杯グラウンドゴルフ大会を開催 ・国東市駅伝競争大会への支援 ・歴史探訪歩こう会の開催(10kmコース)	地域に地区公民館活動の周知ができ、地域の協調性が再認識できた。	全地区からの参加が得られるように、参加者の募集方法・参加形態等検討する必要がある。	90	A	
		(熊毛) ・3地区・ふれあいグラウンドゴルフ大会の開催 ・小学校運動会と共催による地区民体育大会の開催 ・バドミントン・卓球教室の定期開催 ・国東市駅伝競走大会への支援	三世代の年の開きを精いつつ大会運営がなされ、グラウンドゴルフ大会では交流会も地域ごと楽しくできた。	体育部の専門部を中心に企画・運営を実施した、各行事とも、反響が想像以上に良いため、今後も努力を続けて欲しい。地区民体育大会については、小学校との大会運営に関しての十分な協議が必要である。	90	A	
		国東 (米浦) ・軽スポーツ大会の実施 ・市駅伝大会への参加	軽スポーツやミニバレー、ゲートホール等楽しみながら健康増進を推進できた。	地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B	
		(富来) ・軽スポーツ大会の実施 ・市駅伝大会への参加	軽スポーツ大会を実施した。	参加する地区民の数を増やしていく。 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B	
		(上国崎) ・地区民体育大会の実施 ・各種軽スポーツ大会の実施	体育大会に、多くの地区民が参加し盛大に開催できた。	一般地区民のみの体育大会を実施したが、今後これを継続できるかが焦点	80	B	

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯学習の振興	■ 公民館活動	(豊峰) ・運動会の実施 ・地区内軽スポーツ大会の実施	地区民も子どもと一緒に活気に満ちた大会となった。	地区民の減少	80	B
		(国東) ・各種軽スポーツ大会の実施(グラウンドゴルフ、ゲートボール、ミニバレーボール) ・市駅伝大会への参加 ・小学校運動会への参加	体育大会は実施できなかったが、各種の軽スポーツ大会が実施でき、地区民の健康増進に貢献	行政区数が多く、大会の開催に苦慮しているが、地区内健康増進のため、軽スポーツ大会等の開催に努めていく必要がある。	80	B
		(旭日) ・小学校との合同運動会 ・地区内軽スポーツ大会(グラウンドゴルフ、ミニバレー、ゲートボール)の実施 ・市駅伝大会への参加	体育大会は、雨天のため午前中で途中中止となった。(小学校は残り種目を単独開催)また軽スポーツの推進で地区内の調和と健康の増進が図れた。	軽スポーツは参加者が限定される傾向にあるため、多くの地区民への呼びかけが必要	80	B
		(武蔵西) ・小学校との合同運動会 ・スポーツクラブ 駅伝大会 ・菜の花カップマラソン大会参加 ・土曜スクール ・グラウンドゴルフ教室 ・市駅伝大会への参加	合同で体育大会を開催することで地域の方々、学校との交流が深まり、地域に活力が生まれた。又、軽スポーツ大会等を開催することで、高齢者の健康維持とふれあい図れた。	指導者の確保と事業を行う際のボランティアの養成	100	A
		(武蔵東) ・スポーツクラブ 駅伝大会 ・菜の花カップマラソン大会参加 ・スマイルボウリング大会 ・グラウンドゴルフ教室 ・市駅伝大会への参加	地域の中で体育行事に対して参加をしよう、協力をしようとする意識が広がった。	指導者の確保と事業を行う際のボランティアの養成、	100	A
		(西武蔵) ・ゲートボール大会、グラウンドゴルフ大会 ・軽スポーツ大会活動	・地域の接点、活性化を図る場となっている。	・高齢化と子どもの減少	100	A
		(朝来) ・スマイルボウリング大会 ・ゲートボール大会 ・館長杯ゲートボール大会 ・館長杯グラウンドゴルフ大会	・多くの参加で、地域の活性化を図ることが出来た。	・人集め ・雨天時の対応	100	A
		(西安岐) ・館長杯パークゴルフコンペ ・館長杯ゲートボール大会 ・館長杯グラウンドゴルフ大会 からず市駅伝 ・ミニバレーボール大会	・親睦と健康づくりを図ることが出来た。	・チームが減少傾向にある ・少子、高齢化によりチーム減少 ・多くの参加と宣伝の工夫 ・婦人会活動の活性化	100	A
		(安岐) ・公民館長杯ゲートボール大会 ・ふれあいグラウンドゴルフ大会 ・青少年駅伝大会 ・軽スポーツ大会	・ゲートボールをする人の交流・親睦ができた。 ・初心者への参加もあり、楽しくできた。互いの交流の機会になり、来年も是非と言う声が多かった。 ・国東市駅伝競走大会の練習を兼ねて、標記の大会に参加した。子どもたちはそれに向かってしっかり練習するので目標を持った練習ができた。	・地区内で各行事に対して、協力し合える体制が出来つつある。	100	A
		(南安岐) ・三世代ふれあい行事 ・森林体験教室(妙見山登山) ・南安岐グラウンドの清掃作業 ・芸能発表会の練習	三世代スポーツ大会実施 樹木の名前と働きについて実習登山(中学1年生、老人クラブ等) 小学生と共に清掃作業 子供会の出演のための練習	各種事業の継続実施	100	A



平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯学習の振興	■ 公民館活動	青少年健全育成事業				
		(竹田津) 青少年健全育成竹田津地区協議会への助成・活動支援 交通安全指導・パトロール活動の実施 稲刈り・芋ほり・炭焼き体験学習の実施 竹っ子通学共同宿泊体験事業の開催 竹っ子ふれあい収穫祭の開催	学校・地域・家庭三者による地域ぐるみの子育て支援活動が展開された。 通学共同宿泊体験事業は、新たな試みであったが、協調性、自立性に成長が見られた。またふれあい収穫祭では、老人クラブ等、地域との交流が図られた。	学校と地域との協調性はよく保たれている。平成21年度から導入された地区公民館制度と事業推進をしていくなかで、三者が交流をし、よりよい対応をすることが必要である。	90	A
		(伊美) 青少年健全育成伊美地区協議会への助成・活動支援 人権フェスティバル 高齢者ふれあい交流・子ども歌舞伎公演の開催 福祉施設、公共施設等訪問の実施	学校・地域・家庭三者による地域ぐるみの子育て支援活動が展開された。 人権フェスティバルでは、町内小・中学校の児童生徒による作品の展示等を実施する。ふれあい収穫祭では、老人クラブ等、地域との交流が図られた。	学校と地域との協調性はよく保たれている。平成21年度から導入された地区公民館制度と事業推進をしていくなかで、三者が交流をし、よりよい対応をすることが必要である。	90	A
		(熊毛) 青少年健全育成熊毛地区協議会への助成・活動支援 登下校見守りボランティア活動の実施 各地区敬老会への参加、独居老人宅・施設訪問の実施 稲刈り・芋ほり体験学習の実施 熊毛っ子祭り・ちびっ子料理教室の開催	学校・地域・家庭三者による地域ぐるみの子育て支援活動が展開された。熊毛っ子祭りでは、老人クラブ等、地域との交流が図られた。	学校と地域との協調性はよく保たれている。平成21年度から導入された地区公民館制度と事業推進をしていくなかで、三者が交流をし、よりよい対応をすることが必要である。	90	A
		(来浦) 3世代交流事業(収穫祭) 来浦ふじ登山 来浦歴史教室 子ども会活動支援	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	子どもの減少により事業の検討が必要 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		(富来) ゆめさき体験スクール(毎月1回開催) 3世代奉仕活動の実施	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	子どもの減少により事業の検討が必要 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		(上国崎) 環境美化運動(世代間交流) ふれあい雄渡牟礼登山	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	小学校の廃校に伴い、地区内の子どもとどう接点を設けるかが課題 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		(豊崎) 3世代ふれあい事業(パークゴルフ) 平和学習(小学校との共催)	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	子どもの減少により事業の検討が必要 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		(国東) ゆめさき体験スクール(毎週1回開催) 3世代交流アウトゴルフ大会の開催 会報「くにさきっ子」発行 奉仕作業	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	地区内が広いため、今後ITを分散しながら各種事業を検討していく必要がある。	80	B
		(旭日) ゆめさき体験スクール(毎月1回開催) 文化財愛護少年団(旭日小学校)との交流事業 3世代交流事業(4区で開催) 放課後児童クラブを地区館で実施	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	子どもの減少と両親の共働き等の影響で放課後の子ども対策として、公民館を拠点として放課後児童クラブ、学びの教室等の各種事業を学校と連携して実施していく。	80	B

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価		
生涯学習の振興	■ 公民館活動	武蔵 (武蔵西) ・子ども教室の開催(毎月1回開催) (体験学習等) ・土曜スクールの開催(毎週開催) (ドリル学習)	地域の学校は、地域で守り、育てようとする活動の輪が広がり、学校との連携もより良い方向に進んでいる。	地域を支えていくための“人づくり”が必要である。	100	A		
		(武蔵東) ・子ども教室の開催(毎月1回開催) (体験学習等)	地域の学校は、地域で守り、育てようとする活動の輪が広がり、学校との連携もより良い方向に進んでいる。	地域を支えていくための“人づくり”が必要である。	100	A		
		(西武蔵) ・ゲートボール大会、グラウンドゴルフ大会 ・軽スポーツ大会活動	・地域の接点、活性化を図る場となっている。	・高齢化と子どもの減少	100	A		
		(朝来) ・スマイルホールリーグ大会 ・ソフトボール大会 ・ゲートボール大会 ・館長杯ゲートボール大会 ・館長杯グラウンドゴルフ大会	・多くの参加で、地域の活性化を図ることが出来た。	・人集め ・雨天時の対応	100	A		
		(西安校) ・館長杯パークゴルフコンペ ・館長杯ゲートボール大会 ・館長杯グラウンドゴルフ大会 からす市駅伝 ミニバレーボール大会	・親睦と健康づくりを図ることが出来た。	・チームが減少傾向にある ・少子、高齢化によりチーム減少 ・多くの参加と宣伝の工夫 ・婦人会活動の活性化	100	A		
		(安岐) ・公民館長杯ゲートボール大会 ふれあいグラウンドゴルフ大会 青少年駅伝大会 軽スポーツ大会	・ゲートボールをする人の交流・親睦ができた。 ・初心者への参加もあり、楽しくできた。互いの交流の機会になり、来年も是非と言う声が多かった。 ・国東市駅伝競走大会の練習を兼ねて、標記の大会に参加した。子どもたちはそれに向かってしっかり練習するので目標を持った練習ができた。	・地区内で各行事に対して、協力し合える体制が出来つつある。	100	A		
		(南安校) ・軽スポーツ大会 ・健康作りウォーク ・夏休みラジオ体操会 ・向陽祭記念ゲートボール大会 ・館長杯ゲートボール大会	・親睦と健康づくりを図ることが出来た。	事業の継続実施	100	A		
		女性学級の実施						
		■ 女性教育	国見:1学級	実施なし。		定期開催の実施、幅広い学習プログラムを検討する必要がある。	0	C
			国東:学級生44名(毎月開催)	女性教育の一助 人権研修を含め、各方面の講師による講演を実施		学習成果の実践活動	90	B
	武蔵:学級生17名(年間9回開催)		女性教育の一助		学習成果の実践活動	100	A	

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■ 評価 A 成果が上がり目標を十分達成している  
 B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	■ 成人(高年)教育	高齢者学級の実施					
		国見:1学級	実施なし。	会員の減少があり、新規学級生の確保を図るため、老人クラブ・地区公民館との連携の必要がある。	0	C	
		国東:6地区館	各館9回実施(学級生計918名) 高齢者の学習活動支援 各館8回の送迎バスの運行	交通手段が確保(市バスの優先的運行)されなければ開校がままならない	100	A	
		武蔵:高年教育2学級 人権教育推進学級	各10回開催・幅広い学習の展開が出来た。 年間4回開催・人権に対する諸課題を講師を招き開催	交通手段・男性学級生の募集 県内の講師に限定される	100	A	
		安岐:自主講座	安岐:8講座・各年10回開催	高齢の為、交通手段の確保が問題	100	A	
	■ 家庭教育	家庭教育の推進					
		家庭教育支援(講師謝金等) 家庭教育講演会の開催	市内小学校、幼稚園、保育園保護者を対象に家庭教育講演会を2回実施。 家庭教育学習会(安岐中央小1回)の実施。	利用率が低い。全小学校に周知促進 市内各小学校への普及及び家庭教育講演会への参加促進	80	B	
		安岐:1学級の実施	・核家族化で、子育てに悩む親の参考になった。	・父親の参加、子連れで参加した場合の保育・講師の選択	100	A	
	■ 社会人権・同和教育	社会人権・同和教育の推進					
		くにさき地区人権・同和教育協議会	年2回の研修会と先進地視察を実施、先進地(福岡市、飯塚市)視察ではフィールドワークや堅粕の「人権まちづくり館」の取組みや部落史を学び、人権教育・啓発の重要性などを再認識した。 講演会:2回(5/10、3/15) 先進地視察研修:福岡市、飯塚市「筑前竹槍一揆」(11/28・29)	構成団体は、姫島村及び国東市。実施事業に対し姫島村からの参加は少なく、また事務局は常に生涯学習課が担当している。組織としては、合併前の「東国東郡人権教育研究協議会」を引き継いだものであり、姫島村に「人権教育啓発推進協議会」が組織されれば不要となる。	100	A	
		人権フェスティバルの開催	国東市人権・同和教育啓発推進協議会の下部組織である「人権のまちづくり部会」を旧町ごとに組織している。各々の町づくり部会で、平成21年度から人権フェスティバルを開催し市民への人権意識の高揚を図っている。	人権フェスティバルは旧町単位で毎年開催しているが、参加者が少ない、内容がマンネリ化している等の課題がある。今後は、地域に根づいたものにするためには内容等についてなお検討する必要がある。	100	B	
		行政区別人権学習会	市内全行政区で同一テーマで、同一の内容(国東市人権意識調査・同和问题・障がい者問題)や使用する教材についても、統一して取り組んだ。また、開催単位については従来どおり行政区単位とし、市内のほぼ全ての行政区で学習会を開催することができた。	同和问题に対する認識が有るものの依然として「寝た子を起こすな」論が根強い、学習案の更なる精査が必要と考える。参加者については、依然高齢者が中心であり、今後も増加は難しいと思われるが、様々な機会や団体等に働きかけ幅広い層に学習機会を提供する必要がある。	100	B	
		中学生・高校生人権コンサートの開催	12/13国東中学校(願見我楽夢)350人 生徒、保護者、教師 外 12/14武蔵中学校(願見我楽夢)200人 生徒、保護者、教師 外 人格形成に大切な成長期の人権教育の推進に寄与できた。	年々人権バンドの活動団体が少なくなっており、出演者を探すのに苦勞する。市内で発足するような働きかけができると良い。	100	A	
	人権・同和の啓発活動	市報に毎月1ページの紙面をもらい人権に関する記事を掲載し啓発に務めている。また、8月の運動月間、12月の運動週間に啓発知ファンを作成し、全戸配布した。	市報については、内容についても豊富になったと考える。今後は、市のホームページを利用した啓発も考える必要がある。	100	B		

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯教育の振興	■ 図書館事業の推進	図書館協議会の開催 ・第1回協議会開催(7/24)  ・第2回協議会開催(3/21)	図書館事業運営等に対して多くの意見や要望があり今後の図書館サービス向上のための参考になった。	協議会の開催時期・回数・内容等に関して検討する必要がある。	100	B
		図書館の事業				
		・子ども読書活動推進計画(12月策定) ・高齢者・障がい者向け本の宅配サービス事業 ・学校・施設向け本の配送サービス事業 ・ブックスタート事業(乳児健診、1歳6ヶ月健診時) ・図書館広報紙「どくしょがいちばん」の発行(毎月) ・子どもすこやかフェスタへの参加 ・ボランティアとの協働で読み聞かせ会の実施	・子ども読書活動推進計画書を関係機関に配布した。 ・本の宅配(配送)事業は、利用者拡大と学校連携の強化のために始めた事業であるが、利用者には好評である。	・本の宅配業務は利用者には、好評であるが、広報活動が不十分のため、利用者の拡大には繋がっていない。 今後は広報活動の検討が必要である。 ・学校への本の配送サービスについては、授業に使用される資料を学校と連携を取りつつ、計画的に購入する。また学校にサービスの利用を呼びかける。	100	B
		(国見図書館) ・こどもの読書週間「西村繁男作品展」「みんなでアートこいのぼり」「図書館クイズ」 ・「この夏読んでほしい本」リスト作成し、町内小学校に配布 ・秋の読書週間「〇〇をさがせ!」「知られざる賞」「Myしおりをつくろう」 ・県立図書館本の団体借入 ・おはなしひろば(ボランティア)月3回	・国見町でGW期間中「ギャラリーめぐり」が行なわれ、その中で「西村繁雄原画展」が開催されたためタイアップとしてこども読書週間期間中展示を行なった。 ・館内に県立図書館コーナーを設置しており定期的(3カ月に1回)に本の入れ替えを行なっている。それを楽しみにしている利用者も多い。(年間 2,400冊)	・利用者の要望を考慮しながら新規利用者の拡大に努める。		
		(くにさき図書館) ・子ども読書週間の行事「テーマ展示 仕事」「あったらいいこんな図書館」 ・中学生の職場体験、インターンシップ、社会見学の受入 ・「図書館まつり」の開催。(8/19) ・秋の読書週間「ブックコート体験教室」「身近なキットでお菓子の家を作ろう」「読み聞かせにおすすめの本の紹介」 ・「くにさき図書館クリスマス会」の開催(12/24) ・おはなし会(ボランティアとの協働)月2回 ・絵本作家のぶみワークショップ開催(3/3)	・こども読書週間のテーマが「君と未来をつなぐ本」であったため、仕事に関する本を収集し、館内に展示し、併せて自分が望む図書館を子どもたちに描いてもらった。また、秋の読書習慣は、体験型のイベントを企画したが、参加者には好評であった。 ・「ババスクール」との共催で人気絵本作家のワークショップを開催した。参加者からのアンケートでは、今後このような行事を継続してほしいとの要望が多かった。(250名参加)	・イベントを実施した場合、一時的には、利用者が増えるがその後の支援が十分でないため、継続的な利用には繋がっていない。	100	B
(武蔵図書館) ・子ども読書週間行事「テーマ展示としょかんへようこそ」「ぬりえでとしょかんをかざろう」 ・図書館イベント(夏休み工作教室 クリスマス工作) ・新1年生見学会の実施 ・中学生の職場体験、インターンシップの受入 ・秋の読書週間「としょかんのえほんでしりとりをしよう」 ・おはなしのへや(ボランティアとの協働)月4回 ・映画会、出前おはなし会(すこやか館で年5回)	・秋の読書週間では、絵本の書名をしりとりで繋げていき、本の感想を書いてもらい汽車の形の色紙に貼り、館内に展示した。 ・新1年生見学会の時に全員の図書館利用者カードを作成している。	・図書館イベントの参加者が減少傾向にあるため、利用者拡大のための対策が必要である。 ・新1年生見学会が、他の3館でも実施できるよう検討する必要がある。				

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯学習の振興	■ 図書館事業の推進	(安岐図書館) ・こどもの読書週間「児童書貸出冊数制限」 ・図書館まつり(8/23) ・秋の読書週間「ブックコート教室」「おりがみでとしよかんをかざろう」 ・クリスマス会(12/8) ・県立図書館本の団体借入 ・ひまわりのへや(ボランティア) 月1回	・館内に県立図書館コーナーを設置しており、定期的(3カ月に1回)に本の入れ替えを行なっている。利用者には好評である。(年間2,000冊) ・図書館まつりは夏休みの平日に実施しているが、バスでの送迎があるため、子どもたちが参加しやすいようになっている。	・県立図書館の団体本借入れは、毎回好評であるため今後も継続する。 ・休日になると観光客からの問い合わせが多いため、それに対応するための工夫が必要である。	100	B
		図書館利用者数				
		(4館) 利用者拡大に向けた図書館事業及び図書館管理システムの構築により4館の連携を図る。	国見・安岐図書館は利用者・貸出冊数は増加したが、くにさき・武蔵図書館は、減少した。	広報・ホームページ・ケーブルTVを通じ新規利用者の拡大に努めたい。また、4館の連携を図り利用者の利便性をさらに向上させたい。		
		(国見図書館) 貸出利用者数 7,732人 貸出冊数 34,823冊	・貸出利用者数(対前年度比) 11.5%増 ・貸出冊数(対前年度比) 19.4%増	図書館資料の充実、選書、施設の環境整備	90	B
		(くにさき図書館) 貸出利用者 18,952人 貸出冊数 74,462冊	・貸出利用者数(対前年度比) 5.7%減 ・貸出冊数(対前年度比) 5.8%減	図書館資料の充実、選書、施設の環境整備		
		(武蔵図書館) 貸出利用者数 10,209人 貸出冊数 39,665冊	・貸出利用者数(対前年度比) 9.7%減 ・貸出冊数(対前年度比) 9.5%減	図書館資料の充実、選書、施設の環境整備		
		(安岐図書館) 貸出利用者数 12,476人 貸出冊数 57,078冊	・貸出利用者数(対前年度比) 2.5%増 ・貸出冊数(対前年度比) 1%増	図書館資料の充実、選書、施設の環境整備		
		移動図書館				
		(4館) 市内の小学校 8校で実施	貸出利用者数 延べ 3,251人 貸出冊数 7,989冊	多くの児童が利用できるよう、呼びかけ強化に心がける。		
		(国見図書館) 竹田津小、伊美小、熊毛小の3校で実施	貸出利用者数 延べ 1,195人 貸出冊数 2,795冊	1カ月に1回のペースで実施しているため、継続的に利用してくれるような工夫が必要である。	90	B
	(くにさき図書館) 富来小、小原小・旭日小の3校で実施	貸出利用者数 延べ 1,057人 貸出冊数 2,674冊	1カ月に1回のペースで実施しているため、継続的に利用してくれるような工夫が必要である。			
	(武蔵図書館) 武蔵西小の1校で実施	貸出利用者数 延べ 297人 貸出冊数 732冊	1カ月に1回のペースで実施しているため、継続的に利用してくれるような工夫が必要である。			
	(安岐図書館) 安岐小を低学年と高学年に分けて実施	貸出利用者数 延べ702人 貸出冊数 1,788冊	1カ月に1回のペースで実施しているため、継続的に利用してくれるような工夫が必要である。			
	(2) 指導者の育成と団体等の活動支援					
	■ 女性団体の育成	市連合婦人会の育成・指導	補助金の支給(120万)	市内駅伝や男女共同参画事業など市に事業に協力をしているが、活動内容の広報を行い、会員に増加を図る必要がある。また、女性団体のリーダー的な存在となり、地域活性化の主体となっていく必要がある。	90	A
豊の船の育成・指導		補助金の支給(国東・武蔵2町の各団体へ支給)	県が事業として行っていた豊の船事業はすでに終了しており、当時の参加者が自主的に組織運営しており、今後はボランティア活動など自主運営に向けて検討する。	100	A	

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	(3) 生涯学習関連施設の整備充実と活用						
	■ 総合文化センターの管理 (アストくにさき)	アストホール他貸館業務(利用度)	4月～3月までの稼働率 アストホール=26.1%(30,457人) マルホール=60.5%(18,939人) スタジオ=67.7%(2,253人) キャラリー=50.9%(6,395人)	アストホールの利用は、各種事業が続いたこともあり、例年を大幅に上回った。また、懸案事項であったキャラリー活用は、自主事業(漫画展、絵画展)を実施したことにより利用が増加した。	100	A	
		アストホール舞台技術業務委託 (アストホール使用日に、舞台・音響・照明の専門技術者を派遣依頼)	年間派遣技術者数 延べ229人 委託料 5,183,430円(年間派遣日数80日)	平成24年度利用率は、前年度比30%増 当館からの依頼に対して、未対応なし 今後とも、貸館希望と業者派遣対応の確実性を維持	100	A	
		時間外、土日祝祭日への対応(シルバ-人材センターへ委託)	職員の超過勤務解消(日直)	予約管理及び納付書の発行、使用料の収受ができず、利用者に不便をかけているが、平日午後6時までは職員が当番制で対応している。今後の検討課題は、利便性の向上対応	100	B	
		その他、施設の管理・保守点検業務	消防、衛生、空調、電気、エレベーター、舞台吊物・音響・照明等の各種設備保守点検	アグリ園は第22年、アスト側は第10年を経過、保守点検・修繕を行い施設の維持をはかる。 修繕等については、早急に対応しているが、アグリ園の空調設備は修復不可能なほど経年劣化しており、平成25年度に取替を実施する予定。	100	A	
	■ 学習センターの管理 (みんなんかん)	みんなんかん貸館業務(利用度)	4月～3月までの利用人数21,815人 ホール=8,301人(稼働率/42.5%) その他貸館=13,514人	公民大学等各講座の学級生の高齢化・減少が少しずつ進んでいる。	80	A	
		舞台技術業務	職員が交代で対応している。	職員の舞台技術の熟練度の向上を目指す。	90	A	
		時間外、土日祝祭日への対応	職員の超過勤務解消(貸館業務は総合支所日直に依頼)	代休制・フレックスタイム制等の積極的な活用を行う必要がある。 生涯学習課からの業務支援を行う必要がある。	70	B	
		その他、施設の管理・保守点検業務	消防防災設備・空調機・エレベーター・舞台吊物・可動席等各種設備保守点検 生涯学習センター-玄関壁・屋根修繕	建設後10年以上が経過したため、修繕箇所の早期対応の必要がある。	80	A	
	■ 武蔵セントラルホールの管理	セントラルホール他貸館業務(利用度)	4月～3月までの稼働率 セントラルホール=17.0%(6,870人) 公民館=95.3%(12,397人)	職員減により音響、照明の操作が困難。	100	B	
		舞台技術業務	職員	職員減で、対応できる業務が限定しつつある。	100	B	
	■ 武蔵セントラルホールの管理	時間外、土日祝祭日への対応	職員の超過勤務解消(日直)	専門職員の不足。	100	B	
		その他、施設の管理・保守点検業務	消防、衛生、空調、電気、舞台吊物・音響・照明等の各種設備保守点検	照明の老朽化。	100	B	
	■ 安岐公民館	公民館貸館業務(利用度)	4月～3月までの稼働率(大ホール10.0%、中央公民館96.7%) 大ホール=5,515人 公民館=19,424人	施設・設備の老朽化、交通手段等の不備により利用が制限される	100	B	
		舞台技術業務	職員が交代で対応	設備・機器が不十分で、利用が制限される。	100	B	
		時間外、土日祝祭日への対応	職員の超過勤務解消(保守管理は警備会社に委託)	予約管理及び納付書の発行、使用料の収受ができず、利用者に不便をかけているが、事前予約で対応。	100	B	
		その他、施設の管理・保守点検業務	調理用レンジ交換	雨漏りに対する改修 大ホール、安岐地区公民館の耐震診断 トイレ改修(ウォシュレット)	100	C	
	(4) 学習成果の活用						
		■ 指導者として地域等への展開	中央館で習得した内容を、今後は行政区等の身近なところで講師としての生涯学習の普及	一部地区館単位での実施が見られる	自主講座等受講者への働きかけを行う。	100	C

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している  
 B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
学校教育の充実	(1) 幼児教育の充実					
	■	幼稚園教育振興プランの活用	幼児教育振興プログラムにそっての保育活動を実施してきた。		100	A
	(2) 義務教育の充実					
	■ 教育課程	授業時間数の確保	全学校において標準授業時間数の確保ができた。	児童生徒の実態に応じて標準授業時間数を確保するとともに教科等において余剰時間の活用について計画的に軽重を考えていく必要がある。	100	A
		読書活動の推進	小学校で100%(11/11)、中学校で100%(4/4)の学校で週1回以上読書タイムを位置づけている。	読書活動のねらいを明確にし国語科等の授業とつなげる活動を組んでいく必要がある。	90	B
		図書館教育の充実	標準冊数の達成率が小学校で100%(11/11)、中学校で75%(3/4)である。	今年度中に読書率100%をめざす。	91	B
	■ 指導方法の工夫改善	少人数指導、TT指導の実践	加配配置校はTT指導、少人数指導に取り組んでいる。	最初から指導法ありきではなく児童生徒の実態から必要かどうかを判断し取り組んでいく必要がある。	80	B
		1時間完結型授業、板書の構造化の実践	提案授業等では積極的に取り組んでいる。	教職員の意識が高まっている。	80	B
		「わたり」、「ずらし」の複式授業	複式学級のある4小学校全てで取り組んでいる。	主体的な学習態度を育てる間接指導の研究が必要である。	100	A
	■ 英語教育の充実	ALT外国語指導助手を雇用し、英語教育の充実を図る	中学校全校を主に小学校にも派遣ができ、効果があった。	小学校の希望をとり派遣していくことが大切である。	100	A
	■ 教育の情報化	情報教育年間指導計画	小学校で100%(11/11)、中学校で100%(4/4)の学校で作成している。	全学校で作成することができた。	100	A
		ICTを活用した授業実践	社会科や理科、生活科等で実践している。	視覚的機器の充実により全学校で取り組んでいる。今後はより効果的な活用方法を研修していく必要がある。	70	B
	■ 体験活動	体験活動の実施	小・中学校とも全学校で取り組んでいる。	教科の関連性を持たせていく必要がある。	90	B
		国東市歴史体験学習館等の活用	小学校で82%(9/11)、中学校で50%(2/4)の学校で活用している。	市のバス利用もあるので、年間指導計画に位置づけておく必要がある。	73	B
	■ 授業公開	授業公開の実施	全学校で実施している。	日常の中でも必要に応じて授業の相互公開を行なっていく意識をもつ必要がある。	100	A
		「学校だより」の配布	全学校で作成、配布している。	各学校で工夫した学校便りが発行されている。	100	A
	■ 情報公開	学校施設の公開	小学校で100%(11/11)、中学校で100%(4/4)の学校で地域等の要望に応じて施設の公開を行なっている。	施設の公開を通して地域のコミュニティとしての中核的役割を果たしていくことが大切である。	100	A
	■ 学校評議委員会	学校評議委員会の実施	全学校で年3回実施している。	今後も意見等を学校運営に生かしていくことが大切である。	100	A
	■ 学力向上会議	学力向上会議の実施	全学校で年2回実施している。	意見等を学校運営・授業実践に生かしていくことが大切である。学校側の会議の運営での工夫が必要である。	80	B
		小学校、中学校学力問題等連絡会の実施	全中学校ブロック(4ブロック)で年3回実施している。	意見等を学校運営・授業実践に生かしていくことが大切である。	100	A
	■ 学校評価	自己評価の実施	全学校で実施している。	指導の工夫改善に生かしていくことが大切である。	100	A
		学校関係者評価委員会の設置、実施、公開	全学校で実施している。	評価項目の見直し、評価の客観性を高めていく必要がある。	80	B
	■ 学事について	入学式、卒業式、運動会(体育大会)での国旗掲揚・国歌斉唱	全学校で儀式的行事及び体育的行事では、国旗を掲揚し国歌を斉唱している。	学習指導要領に沿って適切に指導していく必要がある。	90	B

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価		
学校教育の充実	(3) 特別支援教育の充実	コーディネーター「校内委員会」の設置、活用	全学校で位置づいている。	効果的な活用方法について研究が必要である。	100	A		
		■ 特別支援教育	発達障害児の個別の指導計画の作成と実施	国東市特別教育支援員(22名)を配置し、生活及び学習の個別支援を行ってきた。配置校ではすべての学校で個別指導計画が作成されている。	今後は、個別指導計画の見直しと効果的な学習内容や指導法の研究が必要である。	100	A	
			関係機関との個別の教育支援計画の作成・実施	個別の教育支援計画を作成している学校が小学校で64%(7/11)、中学校で100%(4/4)である。	特別支援学校に学びながら、関係機関と連携を行なっていく個別の教育支援計画の作成が必要である。	87	B	
			特別支援教育支援員の活用	希望している全学校に1名は配置できた。	研修や指導法の研究を行い、支援員の資質の向上を図っていく必要がある。	90	B	
			特別支援学校の活用	日出支援学校の支援を受けた学校が小学校で36%(4/11)中学校で0%(0/4)である。	学校の指導だけでなく、専門的な指導法を受け入れていく必要がある。	77	B	
	(4) 教職員の資質向上	■ キャリア教育	年間指導計画の作成	全学校で作成している。	実施しながらの改善が必要である	100	A	
			職場(授業)体験学習の実践	全学校で実践している。	進路指導を見据えた指導が必要である。	100	A	
		■ 授業の相互公開	職員間の公開授業の実施	全学校で公開授業を行なっている。	学校間の差がある。多い学校で年間120回少ない学校で2回、一人1実践の取組が必要である。	70	B	
			指導主事の招聘	全学校で年間4回以上招聘している。	公開授業日だけでなく、日常の校内研究でも招聘していく体制が必要である。	100	A	
		■ 県教育センター等の研修への参加	フォローアップ、キャリアアップ研修・一般研修への参加	フォローアップ研修参加者小学校2人、キャリアアップ研修参加者小学校4人である。	教職員自身がライフスタイルに応じた研修計画を立て主体的に参加していくことが大切である。	70	B	
		■ 教職員人事評価システム	面談	「教職員評価システム実施手引き」に沿って年間2回以上面談を持ち指導助言を行なっている。	・面談については、5月・8月・12月の年3回は必要である。評価するうえで具体的な評価基準を定めておく必要がある。 ・自己申告の目標と具体的方策を能力業績評価と連動させることが大切である。	90	B	
			授業参観	授業参観については、面談前に実施している学校がほとんどであるが、中には年間通して実施している学校もある。	授業参観については、具体的評価基準に沿ってねらいを明確にした参観を行なうことが大切である。	90	B	
		■ 綱紀肅正・服務規律	研修等の実施	全学校で実施している。	計画的な実施と意識の高揚を図るため具体的な事例を通じた研修等が必要である。	100	A	
		(5) 心の問題への対応	■ 道徳教育	標準時間数の確保	全学校標準授業時間数を確保できている。	児童生徒の実態に応じて道徳的価値による学習の時間数の軽重を図っていく必要がある。	100	A
				「心のノート」の活用、外部講師の活用	全学校で「心のノート」を活用している。	外部講師については、受け入れ体制をつくっていく必要がある。	90	B
	■ 人権教育		系統的な指導計画の作成	全学校で作成している。	8課題を取り入れた年間指導計画を立てていくことが大切である。	90	B	
			同和問題の授業実践	全学校で実施している。	系統性のあるカリキュラムの作成が必要である。	100	A	
			体験的参加型学習の実践	小学校では100%(11/11)、中学校では100%(4/4)である。	人権感覚を培っていくためには、体験を通して感性を養っていく必要がある。教科等においても取り入れていくことが大切である。	100	A	
	■ 教育相談		スクールカウンセラーの活用	全中学校で活用している。要望のあった小学校(2校)にも派遣できた。	スクールカウンセラーの小・中学校の交流を行なっていく必要がある。	100	A	
			教育相談室の設置	全学校で設置している。	気軽に相談できる環境づくりのためにも小学校での全校設置が大切である。	90	B	
			不登校、保健室登校児童生徒への対応	不登校については、小学校では0名(昨年0名)、中学校では4校で18名(昨年16名)、毎月調査し必要に応じて相談員の派遣を行なっている。	行政からのアプローチではなく、学校からの積極的な連携が大切である。	80	B	
			適応指導教室「フレンドリー広場」への通室指導	毎週水曜日に教育相談員や実技指導員をスタッフとして位置づけ学校・保護者と連携をとりながら実施している。	スタッフの充実、回数の増加が必要である。	80	B	



平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
学校教育の充実	(6) 学校施設の整備充実						
	■ 校舎、施設、設備及び教具等の整備について	校舎、屋体の耐震補強の実施	小原、旭日小学校の校舎の耐震補強工事を実施	小中学校の校舎等(S56年以前の建物)の耐震工事については完了	100	A	
		学校修繕	緊急性のある箇所から優先して実施	老朽化の進んだ施設の対応が必要	100	A	
		AEDの設置	市内全小中学校に配置済	職員研修及びバッテリー等消耗品のチェック	100	A	
		情報機器の推進	教育用PCについては、学校の中で一番多い学級の児童生徒数分を、また、校務用PCについては、市内の全教員分を配備済	電子黒板の有効利用の推進 パソコン機器の老朽化	100	A	
	(7) 学校給食の充実						
	■ 食育の推進	食に関する授業実践	年間指導計画の作成及び授業実践ともに全学校で実施している。	栄養職員との連携を行なっていく必要がある。	100	A	
		■ 学校給食について	衛生管理の徹底 くさき地区学校給食調理従事者研修会 学校給食調理員衛生管理研修会 研究授業方式による衛生管理研究会	食中毒等を防止することができた。	給食従事者の衛生管理の徹底 異物混入の防止 衛生管理用消耗品費等の増加	100	A
			健全な給食会計の運営 運営委員会の実施(4施設・4会計) 運営委員会の統合	健全な給食会計の事務処理	食材費等の高騰による給食会計の運営 今後も高騰すれば給食費の値上げ等も検討	100	B
			施設の維持管理 老朽化した施設、調理用備品の修繕	施設の修繕箇所は増加したが、給食業務に支障がなく運営できた。	老朽化した施設、調理用備品等の維持管理(施設の統合) 炊飯業務(国東・安岐)委託、統合施設等の検討	80	B
	(8) 子どもの安全性の確保						
	■ 安全教育	防災、防犯教育の実践	全学校で実践している。	関係機関と連携し発生時に安全に行動できる実践的態度や能力を育成することや作成している「危機管理マニュアル」の検証を行なっていく必要がある。	90	B	
		■ 安全対策	安全マップの見直し	小学校で100%(11/11)、中学校で75%(3/4)の学校で実施している。	全学校で定期的の実施していくことが大切である。	70	B
			防犯ブザー、タスキの携帯、点検	-防犯ブザーについては、全小学校の児童に配布し学校で定期的に点検を行なっている。 -防犯タスキについては、全中学校で活用し、点検を行なっている。	防犯については、日常的な指導と点検が必要である。	100	A
			スクールガードの活用	全学校で組織できているが、小学校では100%(11/11)、中学校で100%(4/4)の学校で活用している。	学校や地域の実態に応じて効果的に活用していくことが必要である。	100	A
		■ 安全対策	子ども連絡所の確認、周知	全小学校で確認、周知を行なっている。	小中学校が連携して中学校でも周知徹底していくことが必要である。	100	A
		■ 生徒指導	生徒指導の会議、研修の開催	全学校で取り組んでいる。	定期的に持ち、積極的な生徒指導に心がけることが必要である。	100	A
			関係機関との連携	窓口になる担当者を決め、連携がスムーズに行く体制づくりを行なってきた。	担当者のみでなく、学校組織として対応していくことが必要である。	100	A
		■ 保健、体育教育	系統的性教育の実践	全学校指導計画を立て、養護教諭とともに授業実践を行なっている。	3年生から6年生、中学生へと系統的な指導内容及び指導体制が必要である。	100	A
			薬物乱用防止教育の実践	指導計画を立て、養護教諭とともに全学校で授業実践をおこなっている。	3年生から6年生、中学生へと系統的な指導内容及び指導体制が必要である。	100	A
体力、運動能力調査の実施			全学校で実施している。	結果を日常の体育指導に生かしていくことが大切である。	90	B	

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価 (平成24年4月～平成25年3月)

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
青少年の健全育成	(1) 健全育成活動推進体制の整備						
	■ 青少年健全育成市民会議の組織	青少年健全育成市民会議の開催	総会6/29開催		支部活動の充実 地区公民館事業との連携	100	B
		「大人が変われば子どもも変わる」啓発	ナタワー開会式で啓発活動実施 支部ごとにイベント等で啓発活動を実施		啓発活動が中心となるが、街頭での啓発活動が予定通りできなかった。	60	B
		国見支部活動					
		役員会1回・地区協議会総会3地区 生徒指導協議会等に参加	地域に根ざした活動が、学校との連携のうえに成り立っている。児童・生徒の問題事象は少なく、挨拶等基本的な行動ができています。	地区公民館制度の導入により、各地区協議会が地区公民館組織の一部となったため、行事の開催内容・予算面での学校との協議が必要	80	A	
		武蔵支部活動					
		ジュニアリーダー研修、子ども教室	リーダーとしての資質の向上が図られるとともに、異年齢の児童との活動が展開された。	指導者の養成	100	A	
		安岐支部活動					
	ジュニアリーダーの育成、子供会活動の推進	子供会活動の積極的な取組ができた。	指導者・後継者の育成	100	A		
	各地区公民館へ交付金事業として位置づけ	地区公民館活動交付金算定の中に、青少年健全育成事業分として組入れ(基本割+行政区数割)	地域における状況が異なるため、公民館運営委員会等での議論が求められる	90	A		
	■ 子ども会組織・運営	国東市子ども会組織	統合はしないが、補助金は一括とした。			100	A
		国見子ども会					
		各単位子ども会ごとに活動(10単位子ども会)	地区公民館行事への参加や老人クラブとの交流など、地域とのふれあいが図られた。			80	A
		国東子ども会					
		子ども会活動(各支部ごとに活動:32子ども会)	ドッジボール大会、動物将棋大会の実施	子ども数の減少に伴って、活動や子ども会が減少傾向にある。		100	A
		武蔵子ども会					
		子ども会の活動	リーダー研修会、軽スポーツ大会を通してふれあいと友情の輪が広まった。	各町子ども会育成会連絡協議会の活動内容や単位子ども会助成金等の支給に格差が見られるため、補助金支給要件を整え、均一な事業展開を図る。	100	A	
	安岐子ども会						
	ジュニアリーダーの育成	各種行事への積極的参加			100	A	
	(2) 健全な社会環境づくり	生徒指導連盟協議会による取り組み	国東市生徒指導連盟協議会組織の変更。	学校での活動と校外指導の連携と支部活動の充実と全市画一的な取り組みの推進	90	A	
	(3) 学校・家庭・地域の教育力機能の向上						
■ 学校支援地域本部事業	昨年度武蔵中学校区で実施を全市に展開(4中学校区)	学校支援ボランティアとして学校、家庭及び地域社会の連携が図られた。	平成23年度以降は、「国東市協育ネットワーク推進事業」として展開していく	60	B		
	人材バンク加入推進	ボランティア登録者:90名	ボランティアの啓発と周知を徹底、活用面での促進	60	B		
(4) 青少年の体験・交流活動等への参画促進							
■ くにみっ子わくわく体験プラン	小中学校企画委員会の実施 リーダーズキャンプ・企画委員による手作りイベント・クリスマス会の開催	子ども(小・中学生)の企画による各行事に、多くの参加者があり、異年齢間交流・各種体験活動が楽しく行われた。	地域ボランティア等、実行委員会主体による事業運営への転換の必要がある。 子どもたちのスケジュールは過密気味であり、日程調整に不測の時間を要する。	90	A		
	■ ジュニアリーダー	ジュニアリーダー研修	九州大会7名参加、県大会7名参加 登録ジュニアリーダー数:14名	ジュニアリーダーメンバーの減少・市内全域での活動の推進	100	A	
	■ 少年の船	少年の船参加(子ども会抽選、県一般抽選)	市内18名の参加 参加者相互の懇親や体験の話ができる会を設ける。	異年齢交流、体験学習の場として今後とも継続する。	100	A	
	■ くにさき探検隊	スキー教室の実施(1月実施)	市内小中学校から40名の参加	内容の充実	95	A	

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価 (平成24年4月～平成25年3月)

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
青少年の健全育成	■ 成人式	成人式の8月15日開催(市全体)(式典・写真撮影・同窓会)市内住民票居住者と市内中学校卒業者が対象	出席者260人 宣誓者については、従来の方法から個人の誓いの言葉とすることにした。 昨年に引き続き、講演会の実施(矢野大和 氏)	新成人による実行委員会を開催して、開催時期や行事企画を話し合い開催していく必要がある。	90	A	
	■ 国際交流事業	武蔵中韓国交流事業	実施していない。	・合併後、武蔵中学校と安岐中学校2校の実施であり、他の2中学校との整合性を図るため、事業の継続もしくは他の交流事業形式を検討していく。 ・受入事業については、入試と重なるためか、受け入れ家庭が少なく苦慮、日程の検討が必要	100	A	
		安岐中韓国交流事業	8月24日から26日(2泊3日)の日程で安岐中学校2年生による韓国研修事業を実施。1月11日から13日で受入事業を実施。姉妹校(彦州中学校)との交流会及び韓国の文化・史跡の研修を実施し、見聞を広めた。				
	■ ボランティア体験活動	中高生に向けたボランティアセンターの運営	高校との連携により高校生参加者の増加(国東高校JRCの活動)	中学生の参加促進	75	A	
	(5) 子どもの居場所の確保	■ 放課後子ども教室の実施(国東)	毎月1回水曜日開催(国小のみ月2回)	市内全域への展開	学校教育課をはじめとする関係部局との綿密な連携強化	90	B
■ 放課後学びの教室実施(国東)	国東市内14ヶ所で開催	市内全域の展開			90	B	
地域文化の振興	(1) 芸術・文化団体、指導者の育成	■ 市文化協会の設立	文化協会連絡会議の開催(国見・国東・武蔵)	よい意見交換の場が持てた。	当面は連絡会議及び相互交流を図る高齢化による会員の減少	100	B
	(2) 文化行事等の充実	■ 文化ホール事業の実施	国見生涯学習センター ・みんなかんふれあいコンサート「ドス・オリエンタル」開催 ・ミュージカル「星とあるいた白象」開催 ・世界に聴く！ みんなかん講演会「小久保裕紀」開催 ・「加羽沢美濃 & 白澤美佳ハートフルコンサート」開催 アストホール公演事業の実施 ・NHK公開番組「歌の散歩道」 ・「この空の花」スクリーン&トークスペシャル ・朗読劇「月光の夏」 ・鈴木大地講演会 ・全国むら芝居サミット ・山崎ハコスベシャルライブ ・国東市青年演劇祭 ・音楽劇「ペトロカスイ岐部の生涯」 武蔵 センtral講演会(ゆう先生のおもしろサイエンスショー公演) 武蔵 センtral講演会(林家正蔵・三平落語競演会公演)	・平成24年 9月 9日(日)開催:入場者 131名 ・平成24年 10月 26日(金)開催:入場者 255名 ・平成25年 1月 20日(土)開催:入場者 367名 ・平成25年 3月 19日(火)開催:入場者 151名 入場者数 ・NHK公開番組「歌の散歩道」:700名 ・「この空の花」スクリーン&トークスペシャル:308名 ・朗読劇「月光の夏」:130名 ・鈴木大地講演会:120名 ・全国むら芝居サミット:512名 ・山崎ハコスベシャルライブ:128名 ・国東市青年演劇祭:386名 ・音楽劇「ペトロカスイ岐部の生涯」:996名 10/11実施:450名 12/2実施:150名	自主事業の確保、集客努力 平成23年度、24年度2年間は、「光をそそぐ交付金」を活用して、事業の充実を図る。 (1千万円×2年)	100	A
	■ 文化ホール事業の実施	安岐 安岐中央公民館	貸し館のみ	施設の不備・老朽化により運営が制限される。	100	B	
	■ 芸能発表、生涯学習発表会の開催	国見・文化芸能発表会(11/11 ちよるちよる祭り)の開催 公民大学修了式(3/10)の開催	一年間の学習成果の発表が行われ、他団体との交流が図られた。開設40周年記念大会	高齢化が進むなか、新規受講者の加入が求められる。	80	A	
		国東	文化祭(11/4)	40団体の参加があり、展示(2日)から舞台発表(1日)を行った。菊花展は1週間の展示。	会員の高齢化、地区ごとに組織される協会の相互交流	80	B
		生涯学習フェスタ(2/9)	11/15第1回、12/20第2回実行委員会開催、2/9フェスタ開催 18団体舞台出演、15団体の体験教室開催 集客数延べ500名	集客数、1団体の発表時間が少ない等の課題解決(フェスタの開催方法は実行委員会での協議)	90	A	
		武蔵・武蔵カルティバ(2/17)	発表団体・作品展示数の増	自主事業の確保、集客努力	100	A	
		安岐・公民館祭り(3/10)	1年間の学習成果の発表	発表会場が満足な施設でない	100	B	

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
地域文化の振興	(3) 文化財の保存					
	■ 文化財調査委員会の開催	市指定文化財の審査17件答申3件/委員会3回開催/市内研修	文化財の指定審査、調査が適切に行われ文化財の保護保存が図れた。	—	100	A
	■ 国東市歴史体験学習館の管理・運営	管理運営実施及び常設展示、企画展3回、各種体験事業、講座開催、古代祭り等イベントの実施	入館者数13,602人、体験者数4,396人	施設を活用する新企画展・イベント・新体験事業等を多く開催し施設をリフレッシュさせ利用者増を図る必要がある。	100	B
	■ 三浦梅園資料館の管理・運営	管理運営実施及び常設展示、企画展3回実施、	入館者数2,039人	新企画展を多く開催し利用者増を図る必要がある。	100	B
	■ 山溪偉人館の管理・運営	管理運営実施及び常設展示の実施、	入館者375人	常時開館し、利用者増となった。更なる周知が必要である。	100	A
	■ 諸田御田植伝承館の管理・運営	管理運営実施及び常設展示、伝承活動、祭りを実施、	伝承館としての利活用が図られた、	利活用の更なる促進が必要である。	100	A
	■ 埋蔵文化財(安国寺集落跡地)の保存活用	安国寺集落跡地の維持管理保存活用体験事業の実施、	集落跡地公園の無料開放によりその活用が図れた、	安国寺集落跡地の保存活用維持管理の強化とその活用増進が必要である。	100	A
	■ 史跡三浦梅園旧宅の維持管理活用	国指定史跡維持管理・保存の実施、一般開放により活用がなされた、	国東市の重要な観光ルートとして一定の成果が上げられた、	更なる広報宣伝PRの徹底が必要である。	100	B
	■ 無形民俗文化財の伝承活動に対する補助	指定伝承14団体に対する指導助成の実施により伝承活動の継続が図れた、	伝承継承がなされ、全て発表も実施された、	高齢化による後継者不足と伝承活動のあり方、	100	A
	■ 指定文化財の環境維持管理	指定文化財の草刈等環境整備の実施、	文化財周辺草刈、常時見回りを実施し文化財の保存が図られた、	所有者の高齢化による管理困難な物件が多い、	100	A
	■ 指定文化財の説明板設置による文化財啓発活動	文化財説明板設置・改修を行う、	説明版を3ヶ所設置し、指定文化財の活用が図られた、	指定物件数が多く、事業完了に多年を要する、	100	A
	■ 文化財調査委員による指定文化財の保存点検活動	文化財調査委員による見回り点検清掃及び盗難チェックの実施、	各地区の文化財調査委員による見回り点検・清掃が実施された、	文化財調査委員の高齢化により活動内容の見直しが必要、	100	A
	■ 文化財愛護少年団の活動助成	文化財の学習、伝承及び清掃活動の実施	少年団13団体による学習、伝承、清掃、啓発活動が行われた、	小学校統合に伴い既存愛護少年団の編成が困難となりつつある、	100	A
■ 「ふるさと国東の偉人伝」の発刊	故郷国東市の優れた先人の偉業を誇りとして、就学児童・生徒を対象とし、豊かな文化の継承と創造に役立てることを目的に発行した。	郷土の優れた先人たちの足跡は、子どもたちの人生に指針を与え、人間形成の道しるべとなる。	小中学校、学習館の体験活動や各種企画展に活用する。	100	A	
(4) 文化財の活用						
■ 安国寺史跡、三浦梅園旧宅史跡、歴史体験学習館等史跡・有形無形文化財を活用した事業	保存活用事業(国庫補助事業)により学習館体験事業など文化財活用事業を実施した、	古代祭り、体験活動、企画展、各種講座、を実施した、	より一層の文化財を活用した事業展開が必要、	100	A	
生涯スポーツ振興	(1) スポーツ施設の整備拡充・有効活用					
	■ 施設整備の充実と安全指導、管理の充実	施設の老朽化が激しく、多くの修繕を実施した。2名のクラウド整備員を配置することにより、国東・武蔵・安岐地区のクラウド整備を行なった。国見地区の体育施設は、指定管理者の下に、整備を行なっている。	(国見) 国見海洋センター駐車場整備工事 (国東) 国東柔剣道場屋根修繕工事 (武蔵) 武蔵海洋センター屋根塗装工事 武蔵野球場照明修繕工事 (安岐) テニスコート改修工事	施設の老朽化が激しく、計画的な改善を実施しなければならない。 また、スポーツ推進計画を策定し、施設についても市民のニーズに網羅した管理、活用をしていくべき。	100	A
	(2) スポーツ団体、指導者の育成					
	■ 総合型地域スポーツクラブの育成及び発足の推進	総合型地域スポーツクラブの育成、助言、指導、	現在、923みんなんクラブ(国見町:NPO法人)と夢さきスポーツクラブ(国東町)があるが、各々活動してはいるが、単独での運営が困難しており、ふたつを合併し、武蔵・安岐を含め国東市でひとつの総合型スポーツクラブを発足させようとスポーツ推進委員らと準備委員会を開催し、検討している。	国東市でひとつの総合型スポーツクラブ発足に向け、組織作りが急務である。	100	B
■ スポーツ少年団の育成	スポーツ少年団の育成、助言、連絡調整	大分県スポーツ少年団34団体、国東市スポ少は36団体が登録	本年度にスポーツ少年団の連絡協議会に向けての会議を開催した。今後は各団との連携と交流を図る必要がある。	100	A	
■ 指導者の育成及び指導体制の確立	スポーツ推進委員協議会の開催	スポーツ推進委員協議会役員を3回開催、また、全員研修会を実施した、	自らの軽スポーツ普及活動が行なえるような体制作りしなければならない。	100	A	

平成24年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（平成24年4月～平成25年3月）

■評価 A 成果が上がり目標を十分達成している  
 B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある  
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯スポーツ振興	(3) スポーツ活動の普及促進					
	■ 国東市体育協会	国東市体育協会の運営による各種事業推進	運営費の効率的執行による、各種事業を推進した	今後は本市のスポーツ推進計画を策定し、総合型スポーツクラブと連携し、市民にスポーツに親しむ機会の提供と競技スポーツの向上を図らなければならない。	100	A
	■ 競技スポーツの振興及び競技力向上対策の促進	第65回県民体育大会	28団体 455名が出場して、総合15位・B部5位	競技力向上を図るとともに競技人口の拡大を行わなければならない。	100	A
		第55回県内一周大分合同駅伝大会	2月18日から2月22日にかけて実施 成績：総合12位・C部2位	長距離選手の確保と発掘を図らなければならない。	100	A
	(4) スポーツ大会等の開催					
	■ 九州瀬戸内高等学校駅伝大会	今年から、男子駅伝も加え、毎年12月に実施される、全国高校駅伝の前哨戦と位置づけられ、西日本・九州各県・県内の高校から強豪チームが健脚を競う。	台風17号のため、中止となった。	男子フル・女子ハーフのコースを再検討し、より良いものとする。	100	B
	■ 国東市駅伝競走大会	17チームが16区間26.1km健脚を競った。	272名の選手が力走して、沿道では多くの市民の応援があった。また、各地域で大会までの練習を含め多くの市民とのコミュニケーションが図れた。また、当日は多くのボランティアの協力を得ることができた。また、閉会式会場では、婦人団体の接待で市民が親睦・交流を図ることができた。	7回大会が終わり、要項等を含め監督会議で検討して、よりよい大会を目指す。	100	A
	■ ナイターソフトボール大会	地区大会、決勝大会を開催した。	88チームの参加があり、地区予選を勝ち抜いた8チームで決勝大会を開催し、市民の親睦・交流が図れた。	試合の運営方法や要項等検討しながら、より良い大会を目指す。また、SB連盟を確立させる。	100	A
	■ 小学生陸上記録会	小学生を対象に、陸上競技に興味を持ってもらうために開催した。	105名の参加があり、希望者は、県の選手権大会に派遣した。	大会運営について検討しなければならない	100	A
	■ 小学生水泳教室	小学生を対象に、水に慣れ、水泳競技に興味を持ってもらうために開催した。	市内小学生27名の参加があった。	市内全域からの小学生参加者を促進しなければならない。	100	A
	■ 小学生水泳フェスティバル	小学生を対象に、水に慣れ、水泳競技に興味を持ってもらうために開催した。	市内小学生31名の参加があった。	市内全域からの小学生参加者を促進しなければならない。	100	A
	■ 小学生陸上競技教室	市内小学3年生以上を対象に各週土曜日の計12回、開催した。	55名の参加があり6月から11月にかけて12回開催し県大会に出場した。	体育協会事業の運営について、総合型SCを活用できるようにしたい。	100	A